



ごあいさつ



この原稿が会員の皆様のお目にとまる頃には、桜のたよりが聞こえていることでしょう。平素は、同窓会の活動につきご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

岡本茂樹前会長からバトンタッチを受けて会長に就任してから、どうすれば同窓会の活動により多くの方々に参加していただけるのかと思悩んできました。その一つの解決策として選んだのが会務運営のIT化の試みです。詳細は田村副会長の文章でご理解いただくと、ここでは、その意図について触れておきたいと思いま

窓会の活動の実態がほとんど知られていないということでした。何とかして同窓会の活動状況を知ってもらって、少しでも多くの方に参加していただきたい。このままでは新しい役員候補すら見つからず、同窓会の活動の活性化などとても望めない状況に陥ってしまうのではとの懸念もありました。情報をどのようにして発信するかと考えた結果がIT化であったわけです。会報「つゆ草」の発行回数を増やすのも一つの方法でしたが、発送に要する人手と費用を考えると無理だと判断しました。

ちなみに現在の会員数は約6千人に及びますから、1回の発送だけで40万円以上の発送費になります。毎年の収入が新入会員の入会金の約60万円ですから、かりに毎年会報を発行するとすれば、いずれ資金不足に陥ってしまうことになりそうです。とすれば、HPの利用が費用の面からはいいのはどの結論に至ったわけです。HP上に同窓会の活動状況や今後の予定などの情報を掲載すること

で参加しなかった方々の参加を促せないか、メールの利用で会合に費やす時間の削減ができないだろうか、少ない費用でより多くの情報の発信と共有を可能にするには・・・などと考えた結果生まれたのが、田村副会長の発案による情報化委員の制度でした。各期から選出された情報化委員を核にして情報網を作っていくという考えです。HPもできるだけ早く立ち上げて、今回の総会の案内から始めていく予定です。まだまだ手をつけ始めた段階で充分なものではありませんが、将来に向けて一歩を踏み出せたと考えています。言うまでもありませんが、インターネットの環境をお持ちでない方については、従来通りの方法で対応してまいりますのでご安心下さい。役員一同、同窓会の活性化に向けて尽力してまいりますので、会員の皆様には今後とも同窓会の活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

京都教育大学附属
桃山中学校同窓会
会長 竹村一志(14期)

つゆ草の集い

京都教育大学教育学部附属桃山中学校同窓会総会

■とき

2006年6月10日(土)
午後3時 受付開始
午後4時 開会
午後7時 終了予定

■ところ

からすま京都ホテル
http://www.kyotohotel.co.jp/karsuma/index_1_n.html
四条烏丸下ル西側
(地下鉄烏丸線「四条駅」下車 南出口)

■会費

社会人 10,000円
大学生 6,000円
高校生 3,000円

一プログラム一

講演
立命館大学文学部教授(中国現代史)
北村 稔 氏(16期)

「中国は社会主義で幸せになったのか」—中国の今を読み解くヒント—

社会主義を掲げる中華人民共和国で、なぜ凄まじい人権弾圧と貧富の格差が発生したのかも歴史的に探る。西歐モデルの近代化が開始された清朝末期から今日までの歴史を、国際情勢、中国の伝統、社会主義、の三つの柱を中心にして解説する。可能な限り、一つの政治的見解に偏しない「常識」的な歴史認識を得ることを目的とする。

イベント

中学校創立当時のスライド紹介等

※ 出欠のお返事は同封葉書で4月30日までにお願いします。
(注) 出席のご返事を頂きながら、当日ご欠席されました際には、会費をご負担頂く場合もございますので、何卒ご了承くださいませ。

皆様の多数のご参加を心より
お待ちしております。

「つゆ草」と 中学校

体育館横の桜の老木は、今年もたくさんつぼみを膨らませています。幼稚園との間や丹波橋通り沿いの桜並木も春の準備を終えたようです。本年も入学式の前には満開の花で新入生を迎えてくれそうです。中学校の桜は思い出に残るものになっています。

同窓生の皆様は、中学校の樹木・植物にどのような思い出をお持ちでしょうか。中庭のイチヨウの下で文化祭の準備をしたり、グラウンドの木陰で休んだりしたことででしょうか。それとも学級菜園や卒業記念の植樹でしょうか。桜やイチヨウ、キンモクセイなどはすでに思い出せますが、桃やツユクサが思い出に残っている方は昭和に卒業された方の中には少ないのではないのでしょうか。

桃山中学というのに桃の木がない。校章がツユクサなのにはほとんどみる事ができない。このようなこ

とが話題になった時がありました。今から10年前、桐田謙一先生が校長のとき（赴任3年目の頃：H7・1995・9～H11・1999・8）です。当時は、「総合的な学習」が話題になり始めたころで、その先導的試行のなかで、水山先生（現京都教育大学）、廣川先生（現勝山中学校）、前園教諭が中心となり、環境にかかわる学習や活動の研究実践を行っていま

またムラサキツユクサやアジサイなどが学校の周囲に植えられていきました。現在ムラサキツユクサは校門の左側幼稚園のフェンス沿いにあり、初夏にはきれいな花を咲かせています。また、当時文化系部活動が中心になって校章の由来を調べました。デザイン元のツユクサがムラサキツユクサかの疑問は、いろいろな方に尋ねて調べるなか、寺本先生がさらに調べて解決してくださりました。

した。桐田先生は、生徒の手で校庭改善をすることを通して学校への愛着をもってほしいという願いから、ご自身も参加して生徒の自主的な活動を応援し、校内の緑化活動を活発にされました。このような経緯の中で中庭に桃やリンゴの木が植えられ、学級菜園が整備されました。

教えていただいたことを福井菜穂子さん（第51期）たち美術部が、後掲の文章にまとめたのです。図は、当時科学部が校庭の植物に名札をつける活動をしており、パソコンのペイント機能を駆使して描いた作品です。梶岡慎輔君（第50期）の作品で、以来本校を紹介する様々なものにこの図が使われます。

本校の校章のモデルとなった草

英語では「day flower」といい、花は5月ごろから咲き始めます。花一輪は朝開いたら半日でしぼみますが、次々と咲きます。花言葉は、真がで、清らかさや落ち着いた高貴な感じ、権威などを意味するようです。本校の前身である女子師範学校では、この花のような高貴な生徒になって欲しいと願って、この花をモデルにした校章を使っていたそうで、実際校庭にはこの花がたくさん咲いていたようです。中学校ができたときに、その校章の中に、「附中」の文字を入れたそうです。

同窓生の方でこのことについて他にご存知の方があれば、中学校まで連絡いただければ幸いです。

今年も桜が続いて、校門横のムラサキツユクサが小さな花を咲かせると思います。そのころ中学校は北校舎（普通教室や職員室のある校舎）の改築を始めます。年末には完成する予定ですので、ご来校いただき、新しくなった校舎や、再整備した中庭をぜひ一度ご覧になってください。

最後に、当時の緑化活動に参加していただいた同窓生の皆様にあらためて御礼を申し上げます。モモは桃中のシンボル樹に育ちました。校舎改築の関係で移植せざるを得ませんが、内1本が校門脇に植えられます。そのほか、皆様の志を受け継いだ後輩達が社会科教室南に観察池を新しく手づくりしています。新しくなる中庭をふくめて今後の緑化活動や環境学習に皆様のご支援とご指導をお願い申し上げます。

田中 曜次（29期）



イラスト 梶岡慎輔（50期）



京都教育大学附属桃山中学校同窓会

同窓会便り

第八期 (昭和31年卒)

半世紀経て再び信濃路へ

われわれ八期生は仲間意識が強いのか、ただのイベント好きか定かでないが(たぶん両方)とりあえず集まるのが大好き。クラス会も小・中学を一緒に「いしずえ会」との冠を付け、四十歳からほとんど毎年四十名前後の参加を得て催してまいりました。

今年度は「中学卒業後五十年」と大きな節目を迎えました。みんなが思い出に残る企画をと、幹事で



協議の結果「五十年前修学旅行で訪れた信州への一泊旅行」で案議即決。

早速バスと宿の手配をするも、紅葉の美しい九月下旬から十月中旬の土・日曜日となると条件が難しく、結局十一月十一・十三日に決定。しかし、初冬の信州へ何人の参加が望めるか幹事一同不安が一杯、返事が返るたび一喜一憂でしたが、最終的に三十二名と大勢の賛同を得、安堵と共に感謝感謝!!

さて当日、前夜来の雨も止み十月中旬並みの気候で最高、遠くは広島、愛媛、堺からも集まり京都組二十三人全員集合、いざ出発...途中恵那峡で「そば定食」の昼食パーティの後、東京組九人との待ち合わせ場所JR茅野駅へ、午後四時東京組と合流、中には何十年振りの友も...そんな友でも一言まじえはすくに昔へ逆戻り何の気兼ねも背伸びもなく気楽な付き合いのできる本当にいい仲間です。感動の輪が落ち着いたところで目的地蓼科へ、途中信州の澄んだ空に真っ赤な夕焼け、周囲の山々も我々を歓迎するが如く真赤っか!!

宿は「蓼科ブライTON倶楽部」全室スイートルームの豪華版。午後六時から始まった宴会も二次会・三次会と続き終宴は午前三時前...八期生まだまだ若い!

よく飲みよく喋りあつという間の九時間でした。

翌日は今回ツアーのテーマである「ゆつくり、ゆつたり」を主眼に朝はゆつくり、観光は昼食をかねた工場見学一箇所と、とてもシンプルでしたが笑いが絶えることなく皆大満足。(二日間みんな良い笑顔で輝いていました)

しかし、どんな楽しい会でもつらい別れが刻々と...午後二時半JR小淵沢駅で東京組とお別れ...バスは少し軽くなって一路京都へ!午後八時過ぎ無事帰還。

今後も五十五年、六十年と節目ごとに続けたいのですが、いつまで体力が...

幹事一同



第十期 (昭和33年卒)

昨年五月十八日、十九日に信州の浅間温泉と美ヶ原へ一泊旅行をしました。中学の修学旅行で

は集団風邪で大変な思いをしましたので、今回同じ場所へ行き直しとなったのです。

関西、中部、関東の各方面から三十一名が松本の「菊の湯」に集い、一人づつ近況や中学時代の思い出話を披露して大いに盛り上がりました。

翌日は素晴らしい天候に恵まれ、雪を頂いた日本アルプスのパノラマに感動しながら美ヶ原へ行き、約半世紀前にバスガイドさんに教わった「志賀高原の歌」を貸し切りバスの中で合唱して懐かしみました。美ヶ原の頂上から遠くに富士山も見えて大満足の楽しい旅でした。

柏村 和可子(10期)



第十二期
(昭和35年卒)

12期生の「祝還暦同窓会」

昨年(正月、1月8日)から9日にかけて、2年ぶりに京都、ホテル東山閣で、全国から馳せ参じた12期生40数人が再会、まるで、10年程会っていないかのような大騒ぎでした。いつものことながら、45年も経っているのに、あつという間に中学生時代にタイムスリップ。今回も、3年間にわたりご指導ご担任頂いた、大南、長谷川両先生が、私たち以上に元気で、



教え子の還暦祝いにご参加下さり、思い出話に花が咲いて、一同大感激でした。

徹夜で語り合った翌日は、三十三間堂、豊国神社等を散策し、「半兵衛鮎」で昼食の後、名残を惜しみながら散会しました。近隣の再会を約して。

岡本 茂樹(12期)

第十七期
(昭和40年卒)

私達十七期生は、不定期に、幼小・中一緒にの同年会を開いています。今回は一月二十八日、三年ぶりに開催されました。七時半にはなられた藤林先生・喜寿を迎えられた上野先生・昨年喜寿を迎えられた小谷先生、三人の先生方と約40名(約100名中)の参加者が集いました。

50半ばを過ぎたせいとか、今回「同窓会デビュー」という人が数多くいて、40年ぶりの対面に感激、おおいに盛り上がりました。まもなく定年を迎える私達、今いろいろ考えることが多い時にさしかかっています。この時ばかりはみんななな中学時代に帰り、当時の思い出話を花が咲いていました。次の開催時期はもっと早まるのではないのでしょうか。

井澤 孝子(17期)



井澤 孝子(17期)

附属桃山中学校同窓会の
情報化への取り組み

進展めざましい情報化の成果を同窓会の活動にも取り入れるべく検討をしています。

一つは電子メールの活用です。多くの方がメールアドレスを持っておられるので、これを活用してきめの細かい情報提供をできるようにしたいと思います。また各期に評議員(情報化担当)を選出して頂き、期毎の名簿の管理、同窓会活動への意見の吸い上げを行う仕組みを創って、できるだけ皆さんの良い意見を取り入れていきたいと思

二つ目は同窓会のホームページの開設です。これは過去の会誌「つゆ草」や古い校舎の写真や資料が閲覧できるようにするアーカイブ的な活用、更には世代を越えた意見交換の場などに利用することが考えられます。その反面情報化ならではの課題点も揃えています。しかし躊躇してはいけません。前回はありましたが、小さな出発からでも始めたいと思います。どのような活用方法を考えて行くかはこれからです。折角の機会ですので協力して頂ける方を募りたいと思います。是非ともお力もさそいご参加下さい。

またメールやインターネットを使わない方に対しては不自由の無い様に従来通りのやり方も継続させて頂きます。これからも宜しくお願いいたします。



【同窓会役員】

役員	所属
会長	14期 竹村 一夫
副会長	22期 橋本 恒夫
理事	15期 川口 眞樹
	8期 山口 徳之
	13期 西山 肇
	14期 宮々 肇
	15期 藤井 肇
	16期 大門 肇
	19期 岡田 肇
	20期 岡田 肇
	21期 上野 肇
	22期 五郎 肇
	23期 田中 肇
	24期 甲斐 肇
	24期 渡辺 肇
	25期 渡辺 肇
	25期 上野 肇
	31期 三浦 肇
	33期 小林 肇
	36期 長谷川 肇
	41期 渡辺 肇
	42期 小野 肇
	45期 岡村 肇
	2期 松井 肇
	11期 岡本 肇
	10期 止 肇
	10期 岡本 肇
	10期 岡本 肇

【編集後記】

例年よりも早く、そろそろと過ぎつつあり、夏までは桜の開花も報告されるまでこの歳です。こぼれが、本校の発行時には印刷機の上でこのページが編み込まれるように思っています。

さて、今回は、校舎の「ツイン」になっており、ますます多くの情報が集まっています。在校生の調査結果やアンケートの分析も交えて、この中で、かつ、本校にて掲載されているいろいろな情報や先生方に直接お話を伺い、いただいた校舎時代は、何となく懐かしいものがあります。このページを創りたいと思っています。

同窓会も17期の時代が訪れ、同窓会としての情報化も検討中であることを報告させていただきます。同窓会としてのホームページの立ち上げなど、委員各位に「タイム」を確保提供を御用い検討中であり、記事にもお力をお願いいたします。委員各位の御意見をよろしくお願い申し上げます。

同窓会発行をお待ちくださる皆さまの御期待を、お聞き取りいたしました。同窓会としてのホームページの立ち上げなど、委員各位に「タイム」を確保提供を御用い検討中であり、記事にもお力をお願いいたします。委員各位の御意見をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本校発行にあたり関係者各位には大変お世話になりました。関係者各位におかれましては、誠にありがとうございました。編集後記の結びとさせていただきます。

小林 肇樹(33期)